

平成22年度泉佐野市施策評価シート

施策番号	4-8	4-4-1
------	-----	-------

1. 施策の担当

責任課(室)名	環境衛生課
責任課(室)長名	唐池 明彦
関係課(室)	クリーンセンター

2. 総合計画における位置づけ

章	第4章	安全で、ひとと地球にやさしいまちづくり(安全・環境)
節	第4節	廃棄物処理
施策	(1)	安全で適切な廃棄物処理の推進
施策の概要	・泉佐野市田尻町清掃施設組合などの関係機関と連携し、ごみ焼却施設やし尿処理施設の整備を図るとともに、ごみの排出量増加の抑制やより安全で適切な廃棄物処理を推進します。	
施策目標	対象(誰を、何を、どこを)	市民及び事業所
	意図(どのような状態にしたいのか)	ごみやし尿の適正処理を通して、安全で快適な生活環境の実現を目指します。

3. 市民ニーズ(アンケート調査より)

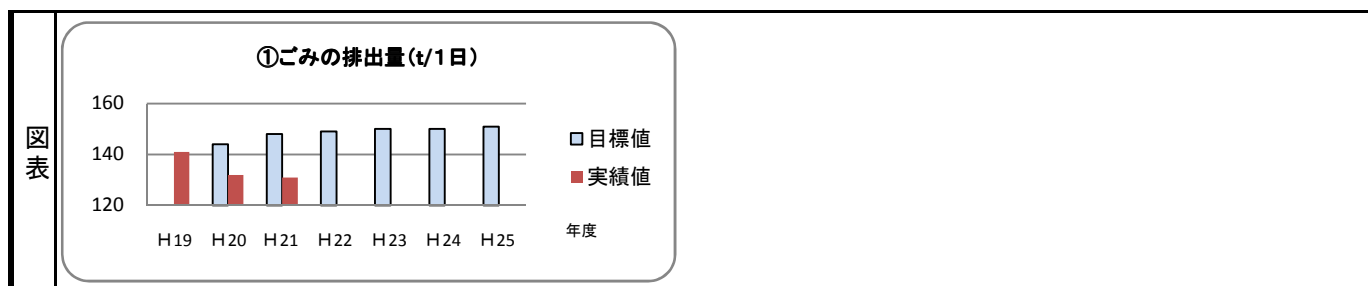
	平成19年度						
満足度(偏差値)	30.0						
重要度(偏差値)	61.6						

4. 事業費の推移(千円)

	平成19年度 決算	平成20年度 決算	平成21年度 決算	平成22年度 見込み	平成23年度 見込み	平成24年度 見込み	平成25年度 見込み
総事業費	—	1,328,668	1,232,415				
うち事業費	—	1,143,300	1,055,175				
うち人件費	—	185,368	177,240				

5. 施策評価

指標名	項目	平成19年度 (基準値)	平成20年度 (実績値)	平成21年度 (1年度目)	平成22年度 (2年度目)	平成23年度 (3年度目)	平成24年度 (4年度目)	平成25年度 (5年度目)
① ごみの排出量(t/1日)	目標値		144	148	149	150	150	151
	実績値		141	131				
	達成度	#DIV/0!	108%	111%	200%	200%	200%	200%
指標設定の根拠		めざそう値の設定根拠			目標達成・未達成の理由・背景			
ごみの排出量を把握することで、ごみの減量化や、ごみ処理施設の方向性がわかります。		「一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(平成17年11月)」の各年度のごみ排出量を基本に平成19年度の実績比率を乗じて算出。			廃棄物処理に対する市民の理解、協力による。			
指標名	項目	平成19年度 (基準値)	平成20年度 (実績値)	平成21年度 (1年度目)	平成22年度 (2年度目)	平成23年度 (3年度目)	平成24年度 (4年度目)	平成25年度 (5年度目)
② 市民1人あたりのごみ排出量(g/人/日)	目標値			1,410	1,413	1,417	1,412	1,417
	実績値			1,272				
	達成度		#DIV/0!	110%	200%	200%	200%	200%
指標設定の根拠		めざそう値の設定根拠			目標達成・未達成の理由・背景			
市民1人あたりのごみ排出量を把握することで、より詳細にごみの減量化等の実態がわかります。		指標「ごみの排出量(t/1日)」を、一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(平成17年11月)に設定の人口で除した数値を目標に設定。			廃棄物処理に対する市民の理解、協力による。			
指標名	項目	平成19年度 (基準値)	平成20年度 (基準値)	平成21年度 (1年度目)	平成22年度 (2年度目)	平成23年度 (3年度目)	平成24年度 (4年度目)	平成25年度 (5年度目)
③	目標値							
	実績値							
	達成度		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
指標設定の根拠		めざそう値の設定根拠			目標達成・未達成の理由・背景			



6. 評価

①担当課による評価				
判定	B	所見	①目標達成・未達成の要因	ごみ袋有料化、容器包装プラスチック類の分別を経て、リサイクルに対する市民の関心が高まり、理解と協力を頂いていることによる。
			②今後の方向	今後とも、市民・事業者・行政の役割分担に基づき、廃棄物の減量化、リサイクルを推進していく。
			③施策指標について	
			④前年度の評価の結果	
判定基準	施策の成果レベル (過去の推移、周辺市との比較なども含む)		平成18年度からごみ袋の有料化、平成20年度から容器包装プラスチックの再資源化を実施した。近隣の市町でも有料化等がすすんでいる。	a
	施策に対する市民ニーズ		市民アンケートでは満足度が低く、重要度が高いことから、ニーズが高い施策である。容器包装プラスチック類の出し方については複雑な部分もあるため、一定数は減ったものの、依然問い合わせが寄せられている。	c
	施策を取り巻く状況 (法令等の動向、国・府の政策の動向、社会潮流など)		廃棄物処理を取り巻く状況は、減量化・リサイクルを優先するシステムへ、循環型社会への転換を求められており、「循環型社会形成推進基本法」をはじめとする各種リサイクル法の制定・整備が行われている。	a
②政策推進課・行財政管理課による評価				
判定	①今後の方向	引き続き施策の推進に努めること。		
	②指標の妥当性			
	③その他			
③外部評価委員会による評価				
判定	①今後の方向			
	②指標の妥当性			
	③その他			
④理事者による評価				
判定	①今後の方向			
	②指標の妥当性			
	③その他			

7. 施策を構成する事務事業

事務事業			事業費(千円)			事務事業評価
			21年度		22年度予算	
No	予算コード	事業名	人件費	事業費		
1	01030700	ごみ収集事業(環境衛生課)	—	—	—	(選択)
2	01031200	ごみ収集事業(クリーンセンター)	140,798	992	1,331	(選択)
3	01026500	環境衛生審議会等運営事業	0	0	156	(選択)
4	01030000	佐野台浄化槽管理事業	374	1,125	1,449	(選択)
5	01030100	浄化槽管理事業	823	726	1,132	(選択)
6	01031400	施設管理事業(クリーンセンター)	1,421	5,450	5,865	(選択)
7	01029900	一般事務事業(環境衛生課)	3,869	1,457	1,931	—
8	01030300	基金積立事業	1	299	92	—
9	01030400	施設組合負担金事業	15	1,044,735	1,129,475	—
10	01030600	一般事務事業(クリーンセンター)	29,909	384	464	—
11	01031110	大阪湾圏域広域処理場整備事業工事負担金事業	30	7	14	—
12						(選択)
合計			177,940	1,055,175	1,141,000	